

当病院で活動されているドクターに、各専門分野での取り組みや、医療への想いを語っていただきます。

眼科 診療部長

vol.20

工藤 孝志 くどう たかし 先生

専門：眼科 得意分野：眼科一般、緑内障



——先生は青森県内のご出身とかがいました。これまでのご経歴をお話いただけますか？

子供の頃は親の仕事の関係で、青森県内を転々としていましたが、小中高と卒業したのは八戸市です。高校は八戸高校、大学は弘前大学です。初期研修医として最初に勤務したのはむつ総合病院でした。後期研修医時代を弘前大学医学部附属病院で過ごし、途中秋田県の大館市立総合病院にも約2年半勤務しました。その後は弘前大学医学部附属病院で約14年半勤務し、今年4月から十和田市立中央病院に常勤医として勤務しています。

——十和田市に住んでみて、どんな印象をお持ちですか？

実は、赴任してくる以前にも非常勤医として週1回、10年ほど通っていましたが、診療が終わった後に市内の散歩をよくしていたのですが、そのたびに町並みがとても美しく、空気が非常にきれいだ、とずっと思っていました。実際に住んでみると、全くその印象通りで、街は整然としているので十和田市住まいが初めてでも道はわかりやすく、毎日とても気持ちよく過ごしています。

——お医者さんになるきっかけは何でしょうか？

高校生くらいの時、本当に大雑把ですが、幸せな人生には健康第一であると自覚し、人体の仕組みをよく知りたい、そこから繋げて、困っている人を治療して助けたい、そのような形で社会に貢献出来るような仕事をしたい、と考え医学部を志望しました。

——休日はどんなふうに過ごしていますか？趣味はありますか？

十和田市から離れることが出来る日は、弘前市に家があるので家族に会いに行っています。趣味は様々スポーツ、どの種目も三流ですが体を動かすことが好きで、野球、バドミントン、サイクリングなどやっています。

た。十和田市に来てからも野球では中央病院のチームにお誘いいただき、また仕事が終わった後にバドミントンサークルに参加していたのですが、6月に腰を痛めてしまい、今は運動が出来ない状態になってしまいました。じっくり治して、またいつか活動出来たらいいなと思っています。治るまではエネルギーを仕事に注ごうと思います。

——先生がご研究をされていることや、取り組みについてなど教えてください。

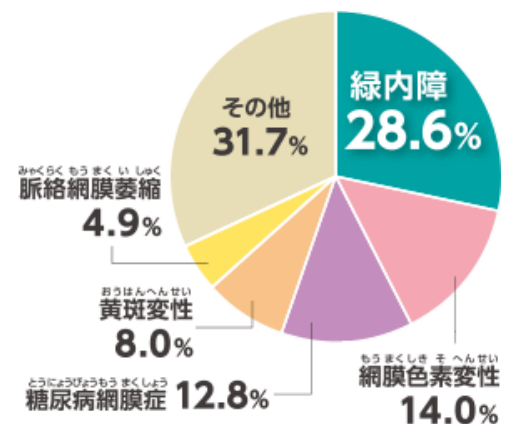
現在、これを研究している、ということは特段ありませんが、眼科についての様々な医学雑誌の記事や論文を毎日少しずつでも読むよう自分に課し、眼科全般日々の診療において、現代の医療に遅れないよう心がけています。また、大学で専門にやっていたのは緑内障という疾患でしたので、緑内障に関しては特に新しい知識や手術に至るまで、地域の皆様に還元出来るよう、頑張っていきたいと思っています。

——大学病院で担当されていた事を教えてください。

大学病院では緑内障の専門外来を担当していました。緑内障患者さんの診療、手術とその術後管理の他、網膜剥離などの救急疾患を含む硝子体手術、当院などへの外勤で眼科一般診療や白内障手術などを行ってきました。また、大学時代の後半は5年ほど教室長を務めさせていただき、人口（つまり患者数）に対して極めて少ない眼科医で、地域（青森県内と一部秋田県北も含めて）全体で患者さんにどのように医療を提供できるか、悩み考えながら勤務しておりました。

——先生の専門である緑内障についてうかがいます。どのような病気でしょうか？

緑内障は、物を見る神経（視神経）が障害されて、見える範囲（視野）が狭くなったり、感度が低下する病態です。専門用語を用いると“視神経乳頭篩状板近傍での神経軸索の障害により生じる網膜神経節細胞死（細胞数の減少）”となります。現在の視覚障害者最大の原因疾患であり、2015年～2016年の新規身体障害者（視覚障害）申請疾患の第1位となっています。40歳以上の5%は緑内障、または前視野緑内障（視神経の障害所見は出ているが視野検査ではまだ正常な段階）であると言われており、国内でも実に千万人規模の患者さんがいると推察されています。



日本人の視覚障害取得原因疾患(2016年)

——緑内障が視覚障害原因1位で、40代と若い頃から発病する方もいると聞き驚きました。なってしまったらどんな治療がありますか。

緑内障治療の基本は眼圧下降（眼圧を下げること）です。点眼薬で治療し、眼圧下降を目指します。眼圧を下げることにより、眼の神経細胞の減少が抑制されます。稀ではありますが、点眼加療で限界に達したケースは手術加療を考慮する必要があります。緑内障により失われ



た視野を回復させることは困難です。一方で、早期に発見し適切な治療を受けることで、ほとんどのケースで生涯視野・視力を保てる病気です。病気の早期発見のため40歳を超えたら一度は眼科で眼底検査などを受けることをお勧めします。



——日々の診療で心掛けていることがあれば教えてください。

中央病院を受診される方は、紹介されていらっしゃる患者さんが多いので、少しこじれた病気の方や、手術を必要とされる病気の方が多いと思います。しっかり丁寧に診る、というのは当然ですが、患者さんがご自分の状態をしっかり把握出来ていないことも多いと思います。病気・病態について、治療方法、限界や合併症も含めて説明をしっかりと行い、患者さんやご家族さんも参加して治療を行えるような診療が出来るよう心掛けています。

——最後に市民の皆さんへメッセージをお願いいたします。

中央病院に赴任し、十和田市の一員として地域に役立っていけることに喜びを感じております。今まで十和田市立中央病院という高次医療施設に眼科常勤医がいなかったため、上北地域の眼科医療はどうしても手薄だったと思います。眼科診療一般に加えて、白内障、緑内障の手術など、これまで修練してきた知識や技術で、当地域に貢献出来れば嬉しく思います。また、大学から派遣となる若手医師の育成のためにも良い医療を提供できるよう、頑張っていきます。新しい中央病院眼科は始まったばかりですが、皆様に信頼されて利用していただけるよう、努力してまいります。どうぞよろしくお願ひします。



所属学会：日本眼科学会、日本眼科医会、日本緑内障学会、日本網膜硝子体学会

資格情報等：日本眼科学会 眼科専門医、PDT 施行認定医、難病指定医、羊膜移植術認定医、ボトックス施行認定医、身体障害者福祉法指定医、緩和ケア研修会修了、医師臨床研修指導医養成講習会 受講済、日本スポーツ協会公認スポーツドクター